

生きる力の育成

平成23年度指定

～先人の心に学べ生野の子～

おやじの会の活動を通して、生きる力、助け合う心、

思いやりの心を育てる

生野小学校PTA及びおやじの会

PTA会長	長 沢 泰 男
学 校 長	山 本 郁 夫
おやじの会会長	佐々木 義 徳
児 童 数	4 0 1 名
会 員 数	3 3 9 名 (家庭数 3 1 1 名 教職員数 2 8 名)
所 在 地	〒751-0827 山口県下関市幡生本町7番14号 TEL 083-252-2044 FAX 083-252-9751 E-mail ikuno-shou@edu.city.shimonoseki.yamaguchi.jp



1 学校地域の概要

本校は明治7年8月、幡生の地に幡山小学校として設立され137年目を迎える伝統校である。

所在地域の幡生は、古代より幡生湾を中心に集落が形成され、海路の中心地として発達してきた歴史を持ち、近代では湾の埋め立てにより山陽・山陰の分岐点として国鉄幡生工場や操車場ができ、陸路の発達と相まって急速に下関市の住宅地として発展してきた。現在、幡生駅近隣にマンションの建設も起こり新たな発展を見せている。

「幡生」の地名の由来は、神功皇后西国征伐の旗揚げをされた地であり、船出のとき多くの軍船の旗（幡）が立並んだ様子は、あたかも海原に（幡）が生えそろうたようだというので「^{はたぶ}幡生」の地名がつけられたと言われている。

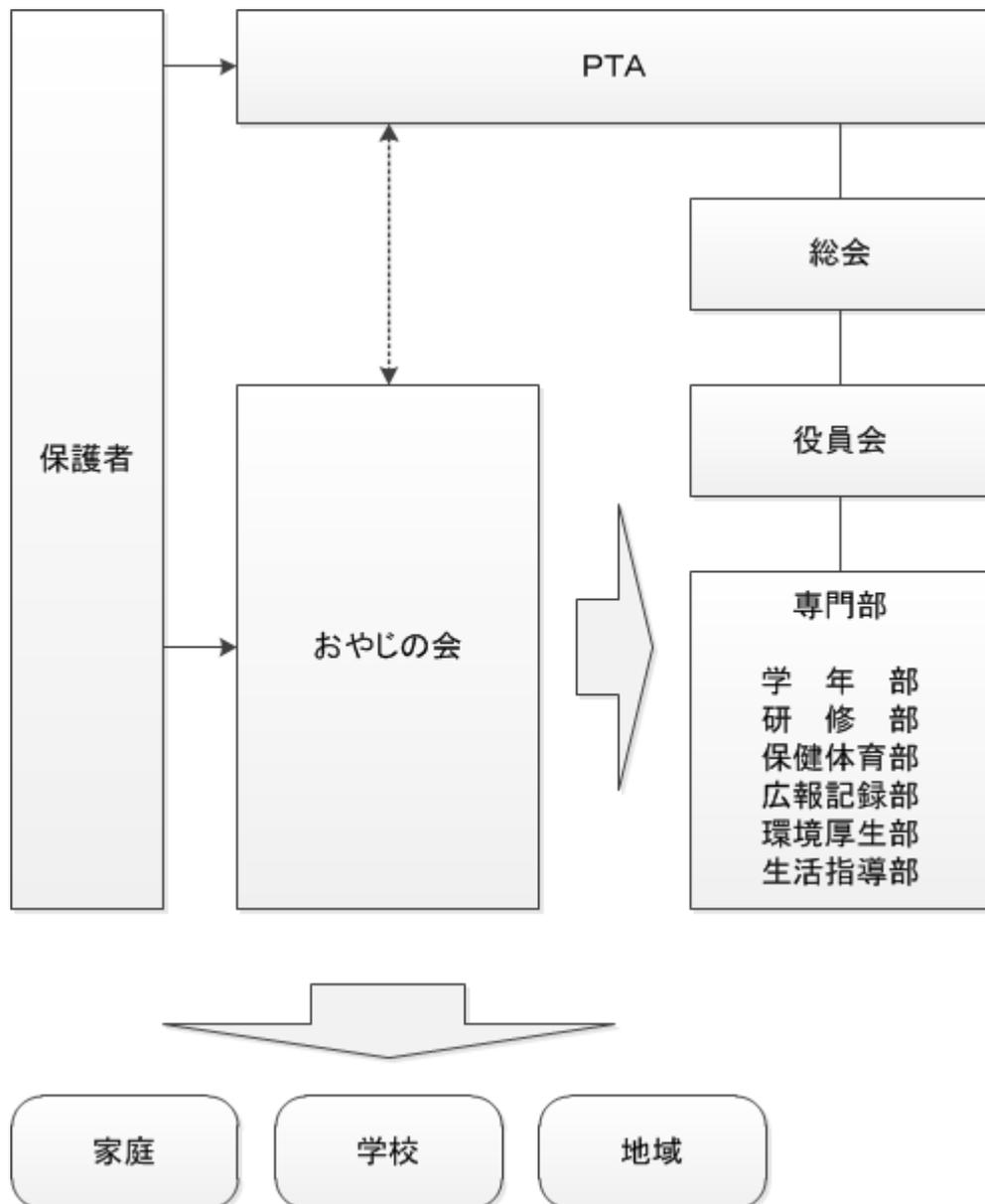
生野の地名は、明治31年、幡生・後田・武久・大坪・椋野・藤ヶ谷各村のなかで人口の多かった幡生と椋野一字を採って新村名「生野」となった。

2 PTA 及びおやじの会の組織

PTAは、保護者と教職員の相互理解と協調し合っ家庭・学校及び地域での児童の幸福成長を図ることを目的としている。

おやじの会は、有志の児童の父親を中心に、PTA活動の側面支援と親子の絆作りを目的と掲げ結成され本年で13年目を迎えている。

<PTA・おやじの会の構成>



P T A各専門部の役割

- ①学 年 部：保護者と教職員との理解を深め、学校教育に対する協力と児童の幸福な成長を図る。
- ②研 修 部：家庭教育のあり方と児童の理解を深め、会員相互の教養を高める研修を進める。
- ③保健体育部：保健体育の施設整備を図り、児童及び会員の健康安全に努める。
- ④広報記録部：P T Aの情報活動をとおして理解と協力を図り会員の文化を広め、記録の保管をする。
- ⑤生活指導部：地域社会における会員相互の連帯感を培い、児童の健全育成と安全対策を図る。
- ⑥環境厚生部：地域学校の教育的環境の設備充実をすすめ、会員相互の厚生を図る。

※おやじの会：P T A活動の側面支援及びレクリエーション等により、児童間並びに父親間のコミュニケーションを図る。

P T A主要事業（平成23年度）

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1・P T A歓送迎会 | 5月 |
| 2・運動会協力 | 5月 |
| 3・救急法講習会 | 6月 |
| 4・学校保健委員会 | 6月・1月 |
| 5・広報誌「生野」発行 | 7月・3月 |
| 6・夏期休業中のプール監視 | 7月～8月 |
| 7・親子清掃作業 | 8月 |
| 8・3校P T A親睦球技大会
(山の田中・山の田小・生野小) | 10月 |
| 9・学校観劇会 | |
| 10・教育講習会 | 11月 |
| 11・学習発表会・P T Aバザー | 11月 |
| 12・校内持久走大会協力 | 12月 |
| 13・ベルマーク収集活動 | 5月～3月 |
| 14・登校時の交通指導・あいさつ運動 | 6月～2月 |
| 15・読み聞かせ | 随時 |
| 16・学級・学年活動 | 随時 |

その他下関市北部地区文化祭バザーの地域への協力など

おやじの会行事

- 1・運動会テント設営、駐車場警備及び飲み物販売 5月
- 2・ハンドベースボール&ドッジボール大会 6月
- 3・親子ふれ合いキャンプ 8月
- 4・親子釣り大会 10月
- 5・3校PTA球技大会への積極的な参加 10月
- 6・北部地区文化祭バザー（餅つき）の協力 11月
- 7・学習発表会の駐車場警備及びバザー出店 11月
- 8・親子ボーリング大会 3月
- 9・その他、山の田中学校区の夜間防犯パトロールへの参加など地域への協力

3 研究主題について

「おやじの会の活動を通して、生きる力、助け合う心、思いやりの心を育てる。」

生野小おやじの会は、子どもを取り巻く環境が、核家族化や少子化と進み、子どもの^{しつけ}躾や学校・地域との連携が希薄になっている昨今、父親の家庭教育への積極的な参加や、学校・地域との連携などの役割を見直す必要があり、さらには、親子の絆を強くすることなどを趣旨として結成された。

おやじの会の行事は、上記のようなレクリエーションを中心とし、低学年から高学年まで、一緒になって遊んだり、学んだりしている。その中で、各児童が親の手を借りずに自分の力でやってみることにより、生きる力を養うことができ、また高学年児童と低学年児童が、手助けや、譲り譲られる気持ちを持つことで、助け合う心、思いやりの心が育つ。それらが、人間形成において、これからの課題だと考え研究のテーマとした。

4 活動内容

おやじの会行事に沿った活動の実績を以下に表します。

1) 運動会テント設営、駐車場警備及び飲み物販売

生野小学校の運動会は5月29日（日）に予定されていたが、本年度は、雨天により、残念ながら翌日の月曜日に延期となり、日曜日早朝のテント設営、飲み物販売はできなかった。しかし、月曜日の平日の朝にも係らず、出勤前の父親が早朝から多数テントの設営に参加し、車両の警備を行った。



2) ハンドベースボール&ドッジボール大会

生野小体育館を使用し、ハンドベースボールとドッジボールを行った。

1年生から6年生までを学年が均等になるように2チームにチーム分けをし、おやじの会OBの中学生も手伝ってくれて開催した。ところが、ハンドベースボールが始まるといきなり問題発生！守備の面で、児童に守備位置を考えさせ守備位置につくと、男子児童が内野（特に高学年）女子児童が外野の布陣。すると、外野に飛んだボールはほとんどヒット、内野への打球は男子児童の有り余るパワープレーで暴投続出。そこで女子児童を内野、男子児童を外野に変更してみた。すると内野の女子児童は取って投げてでも1塁に届かず間に合わない。又ランナーで出ている低学年の女子児童が、打者が打ったのに走らずに塁上で止まったままなどで試合にならない。言葉でルールを説明してもなかなか理解してもらえない。すると、高学年の男子児童が、「内野にいる女子児童は取ったら1塁に投げなくても取っただけでアウトにしたら？」と提案してきた。なるほどと思いその案でプレーを再開すると驚くほど締まった良い試合になり、なんと延長戦での決着となった。

こうして、子供達が自分で考えること、低学年に対し文句や非難をするのではなく、どうすれば一緒に楽しくできるかを子供達自身が考え提案するという喜ばしい結果となった。

また、ドッジボールでは、指示した訳ではないにも係らず、高学年は低学年に対して強いボールは投げないなどの思いやりのある行動が見られた。



3) 親子ふれ合いキャンプ

おやじの会の行事の中で1番のメイン行事である親子ふれ合いキャンプは、毎年小学校の校庭を使用して開催している。

1年生から6年生までの児童22名と父親13名の参加で、天候が怪しい状況の中の集合となった為、テントの設営は天候を見ながら屋外に設営するか、設営を見合わせるか判断しようということで、工程を入れ替えぎりぎりまで待つこととし、児童たちはプールでの遊泳を行った。

父親はプールサイドに6名監視役として交代で配置し、児童の安全を見守った。監視役以外の父親は、夕食時に使用する食器の洗浄や、テーブル、調理器具等のセッティングなどを手分けして行った。

<キャンプ開催スケジュール>

8月6日(土)		8月7日(日)	
集合	14:00 ~	起床	6:00 ~
テント設営	14:00 ~	ラジオ体操	6:30 ~
プール	14:00 ~	学校周辺の清掃	7:30 ~ 8:30
夕食の準備	16:00 ~ 18:30	朝食	7:30 ~ 9:00
夕食	18:30 ~	プール	9:00 ~ 10:30
自由時間	20:00 ~ 20:30	後片付け	10:30 ~ 11:00
消灯	21:30 ~	解散	11:00



プール遊泳が終わり、夕食の準備に入った。夕食はキャンプの定番であるカレーライスです。ご飯は経験の為、飯盒炊飯も行い時間の関係上、後は電気釜を使用して炊いた。

高学年男子が数名で、お米の研ぎ方、飯盒の水の量など父親達から教わりながら行っていく。

他の児童は、野菜の皮むきや、包丁を使っての下準備を行った。



飯盒炊飯班は、研いだお米を火にかけ、炊き上がりまでを煙たい顔をしながら、父親達から「ご飯の炊き上がり具合が悪いと食べられないぞ」などとプレッシャーをかけられながらじっと見ながら待っている目は真剣だった。野菜の下準備も終わり、カレーを煮込む間に児童にはかき氷のプレゼント。



ひと段落したところで、天候の悪化も無いと判断し、屋外でのテントの設営となった。年に一度のテント設営なので四苦八苦しなながら親子で助け合って設営した。上級生は立派に手伝い、下級生は上級生の指示で手伝う光景が見える。



夕食のカレーも出来上がり、児童には自分で食べられる量を自分で盛らせ、食べ終わった後は自分で食器を洗い片付けた。その後児童は普段泊まることの無い校庭のテントの中で、おしゃべりなどを楽しんで消灯。父親はテントを監視しつつ父親同士のコミュニケーションを十分に図った。



翌朝、なかなか寝つけなかったりで、眠い目をこすりながらラジオ体操をし、朝食はホットドックを作って食べ、その後学校近辺のゴミ拾いを全員で行った。



全員で片付けを終え、子供達は時間までプールで遊び、最後に記念撮影をして、児童にとっても父親にとっても意義ある2日間のキャンプは終了した。



4) 親子釣り大会

10月9日おやじの会では2回目となる親子釣り大会を、下関市吉見フィッシングパークにて行った。釣りをするのが初めての児童や父親も参加し、はたして釣果があるのか不安いっぱい開催だった。道具は各自で準備し、簡単なサビキの仕掛けで釣ることにした。

一番大きな魚を釣り上げた児童にトロフィーがあると告げると、「トロフィーもらったことない、絶対一番になるぞ」と気合十分だったが、釣れてはいるものの小アジばかり・・・しかし釣った喜び、感触、釣った魚を食する楽しみなどを体験できた。

ちなみにトロフィーは狙いのアジではなく、一番大きな魚エソを釣り上げた児童に授与された。



5) 10月に予定していた3校PTA球技大会は、天候不順により中止となった。

6) 北部地区文化祭バザー（餅つき）の協力

11月13日に行われた北部地区文化祭では、地域の方々とのコミュニケーションを図るため、餅つきのお手伝いをPTA及びおやじの会の会員で行った。地域にはお年寄りも多く、餅をつくのが大変ということで毎年喜ばれている。



7) 学習発表会の駐車場警備及びバザー出店

11月20日の学習発表会への協力では、バザー用テントの設営や、サブグラウンドの駐車場警備を行った。駐車場として開放しているサブグラウンドは、進入路なども非常に狭いうえ、各学年が発表する毎に車両が出入りする為、サブグラウンド駐車場の警備は毎年おやじの会が担当している。早朝より寒い中、トラブルにならないように的確に誘導をしている。バザーでは毎年たこ焼きや焼き鳥などおやじの会で1店出店し、好評を得ている。

発表が終わり、緊張から開放された子供達の楽しそうな顔は見ていて微笑ましくなる。



8) 親子ボーリング大会

3月11日には、おやじの会最後の行事、親子ボーリング大会の実施を計画している。

毎年家族で賑やかにプレイし、児童には全員賞品を、大人は上位のみに賞品を授与している。今年も楽しいボーリング大会になることを期待している。

9) その他 地域への協力

山の田中、山の田小、生野小の3校おやじの会のメンバーと各校教職員にて、毎月1回夜間防犯パトロールを行っている。夜間外出している生徒・児童への声掛けや、ゲームセンター、カードショップ、コンビニ等へも巡回し、防犯に対する協力を行っている。



5 成果と課題

研究主題にも掲げた、「生きる力、助け合う心、思いやりの心を育てる」について、児童の自発的な行動・言動の中から、それらの心が見てとれたことは、大変素晴らしい結果と

言える。ハンドベースボールやドッジボールでの下級生への思いやり、キャンプで培われたであろう自立心や、テント設営の際に指示する上級生への尊敬の眼差し、魚釣りによる生き物への関心や感謝など、今後成長していく上で重要な心を数多く学べたのではないかと思う。

父親も日頃時間が取れず、子供とのふれ合いの場が少なくなってきた中で、おやじの会の活動を通してふれ合う事ができ、我が子の意外な一面も発見できたのではないだろうか。

1年間の行事を通じての活動そのものが今年度のテーマ「生きる力を育てる」に対し、本会の活動並びに今回の研究は非常に有意義で満足の得られた結果であった。

今後の課題としては、

- ①おやじの会の活動を更に幅広く周知し、賛同を得ること。
- ②会員を増加することにより、更に充実した活動の幅を広げていくこと。
- ③本年以上に山の田中学校区3校（山の田中、山の田小、生野小）の連携を密にし、活動していくこと。
- ④地域行事への更なる積極的な参加を行っていくこと。

以上の課題を今後推進していくことにより、本会をより広く周知してもらい、さまざまな活動に参加することで、地域の生徒・児童の安心、安全、生きる為の教育などに、大きく貢献していけるのではないかと考える。